

第5章 宇部（小串構内）医学部臨床講義棟・病理解剖棟 新営に伴う試掘調査

1 調査の経過

調査地区は大学キャンパスの中央部北端、エネルギーセンターおよび動物舎の南側の地域にあたり、第4章で述べた基幹整備に伴う試掘調査の際設定したAトレンチの南約130～150 mに位置する。小串地区では昭和58年度以降、施設整備等に伴い埋蔵文化財保護の観点から、宇部市教育委員会の指導を得て鋭意調査が進められているが、当該地域周辺では地下の観察資料が欠如しており、基礎資料の蓄積が望まれていた。

この地域に臨床講義棟・病理解剖棟が新営されることになり、昭和59年6月11日から28日にかけて遺構・遺物の有無、土層の堆積状況および旧地形の把握を主眼として試掘調査を実施した。新営建物は現在では機能していない旧電気棟および管理棟の解体・撤去後の跡地に計画・立案された。これをうけて、調査は上記の支障建物および地下埋設物等を回避し、新営建物予定面積約760 m²のうち約38 m²について東からAトレンチ（2 m×10 m）、Bトレンチ（2 m×5 m）、C・Dトレンチ（各2 m×2 m）の4ヶ所について行なった。その結果、顕著な遺構、遺物は認められなかったが、当該地域における土層の堆積状態を観察することによってキャンパス内各所と地下の状況が比較・検討できる基礎資料が得られるに至った。

なお、腐蝕土および構内造成時等の置土は機械を使用して除去し、それ以下は人力による分層発掘を行なった。

2 層位

現地表面の標高はおおむね約3.60～3.80 mで、わずかに低くなっているCトレンチ付近以外の調査区周辺の起伏は少なくほぼ平坦に近い。

調査区において観察した堆積層は16層に区分される。現地表面直下の第1層は腐蝕土および構内造成時等の置土

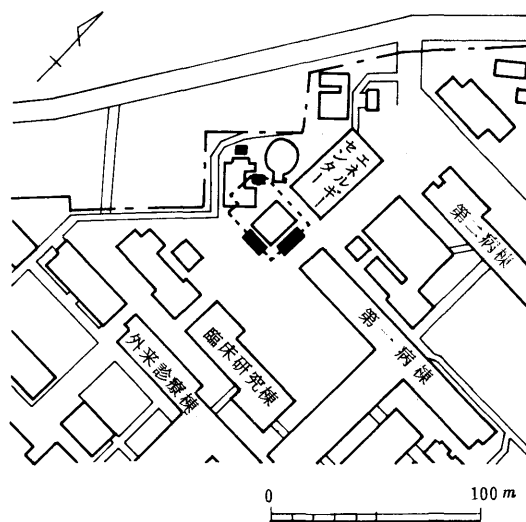


Fig. 13 調査区位置図

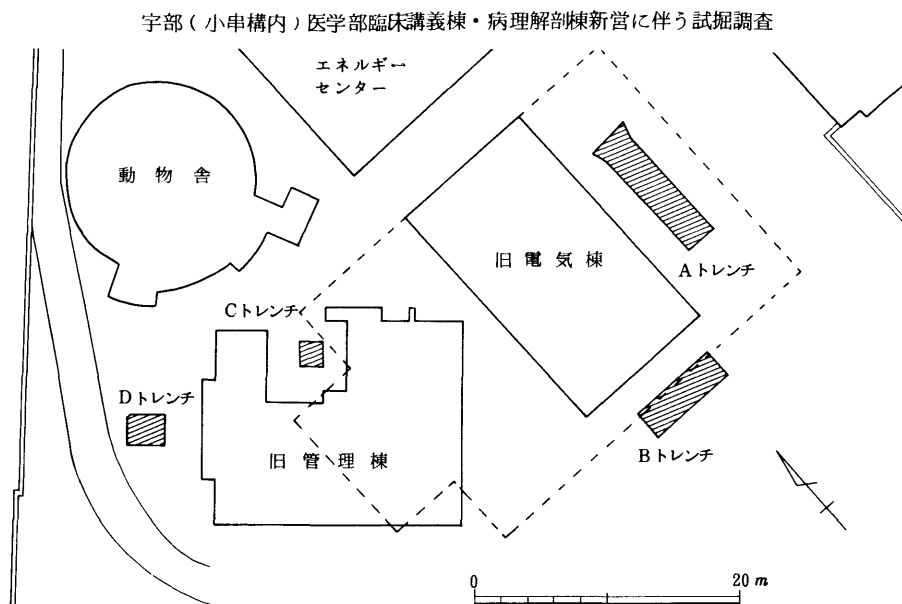


Fig. 14 調査区設定図

を含む表土で約 160～170 cm の厚さをもつ。第 2 層は旧耕作土ないしは旧地表と考えられる黒灰色土層で、C トレンチを除いた各トレンチで部分的に堆積する。第 1 層ないしは第 2 層の下面標高は A・D 各トレンチで約 2.10 m、B トレンチで約 1.90 m、C トレンチで約 1.70 m である。それ以下の堆積層が非人為的な二次堆積層であるが、そのほとんどがシルト質のグライ土壌であった。第 14～16 層は自然木、木葉等の植物遺体を含む堆積層で A トレンチ北半部および C・D トレンチでは第 1 層ないしは第 2 層直下に認められる。B トレンチでは西半部を中心に無遺物層の堆積する落ち込みが観察された。

なお、これらの堆積層下位は調査時における湧水および安全面の観点から把握していないが、A トレンチ北端部で実施した深掘りでは少なくとも現地表下約 2.50 m、すなわち、標高約 1.30 m まで第 16 層の堆積が認められ地山は検出されない。

3 小 結

小串地区では上述したように昭和 58 年度以降、今回の調査地区をはじめとして体育館周辺地域（第 1 地区）および基幹整備路線地域（第 2 地区）において試掘・事前調査が進められている。第二病棟、野球場、職員宿舎周辺地域の詳細は今後の調査を待たねばならないが、本稿では以上三地域での調査の成果をもとに、キャンパス東端部から北半部縁辺にかけての地下状況の概要を整理しておくことにする。

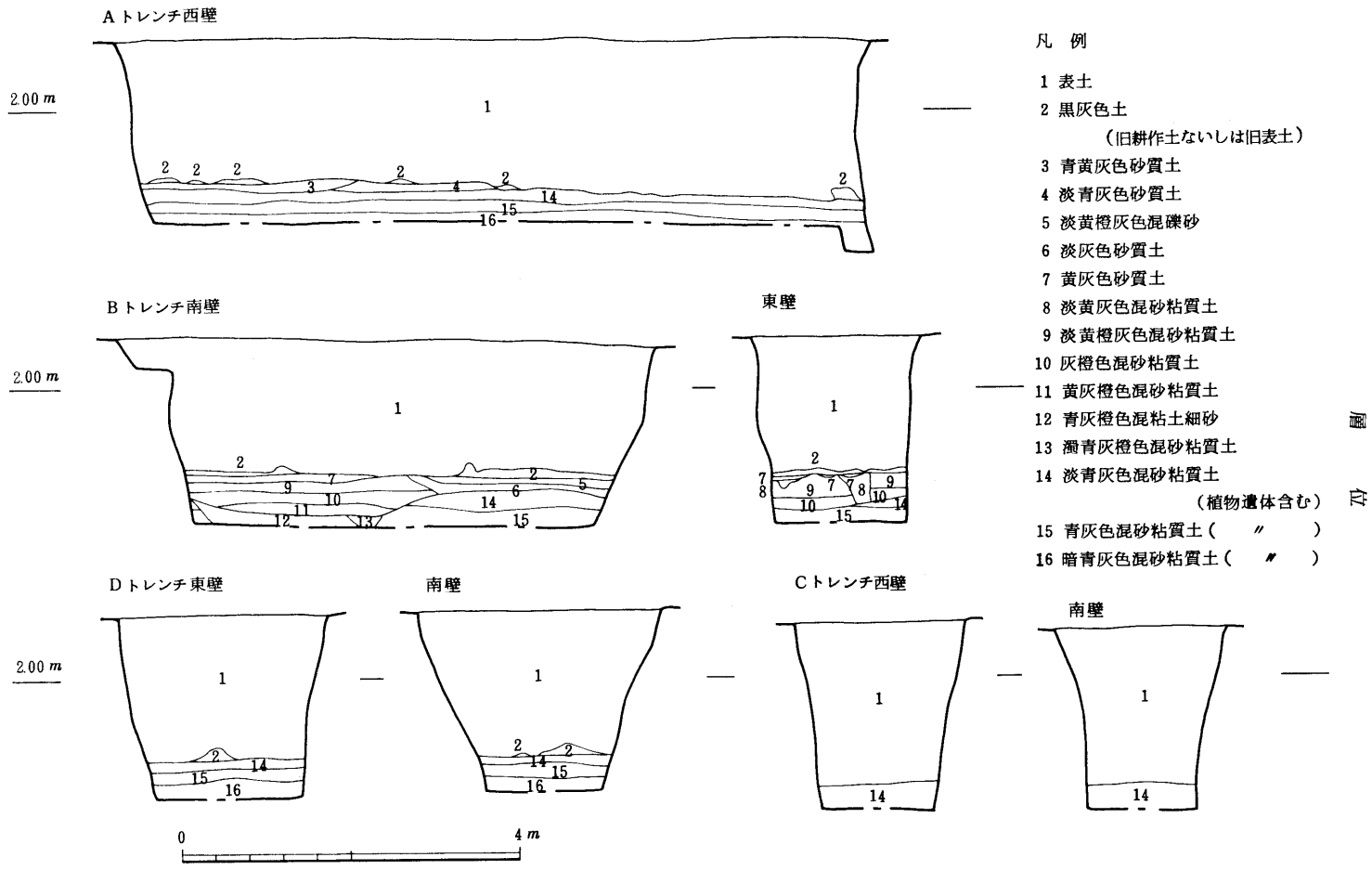


Fig. 15 土層断面図

三地域における土層断面柱状図はFig.16のとおりである。現地表は今回の調査地域が最も高所に位置し、第1地区および第2地区との比高差がそれぞれ約2.0～2.3 m、1.4～1.6 mである。しかし、旧耕作土ないしは床土下面、すなわち非人為的な二次堆積層上面は第1地区から第2地区Cトレンチおよび第2地区Aトレンチから今回の調査地区にかけてそれぞれ次第に標高を増すのに対し、その間に位置する第2地区Bトレンチでは谷あいに立地しているためか標高約0.55 mと急激に低くなっている。

また、遺物を包含する堆積層は第1地区および第2地区C・Dトレンチで観察される。第1地区では青黄灰色粘土層からの出土もみられるが、基本的には各地区ともそれより下位の青灰色粘土層中に見出され、中世から近世の遺物を包含する。また、各地区の遺物包含層より下位には植物遺体ないしは二枚貝、巻貝等の貝類を含む自然堆積層が存在し、この動植物遺体を含む堆積層以下に遺物が包含されている可能性は少ないものと考えられる。

以上のような土層堆積状況の観察は、未調査地域における今後の調査資料の蓄積によって補完され、キャンパス北半部縁辺のみならず、キャンパス内全体の遺跡分布、旧地形の把握等に重要な基礎資料を提供するものである。(河村)

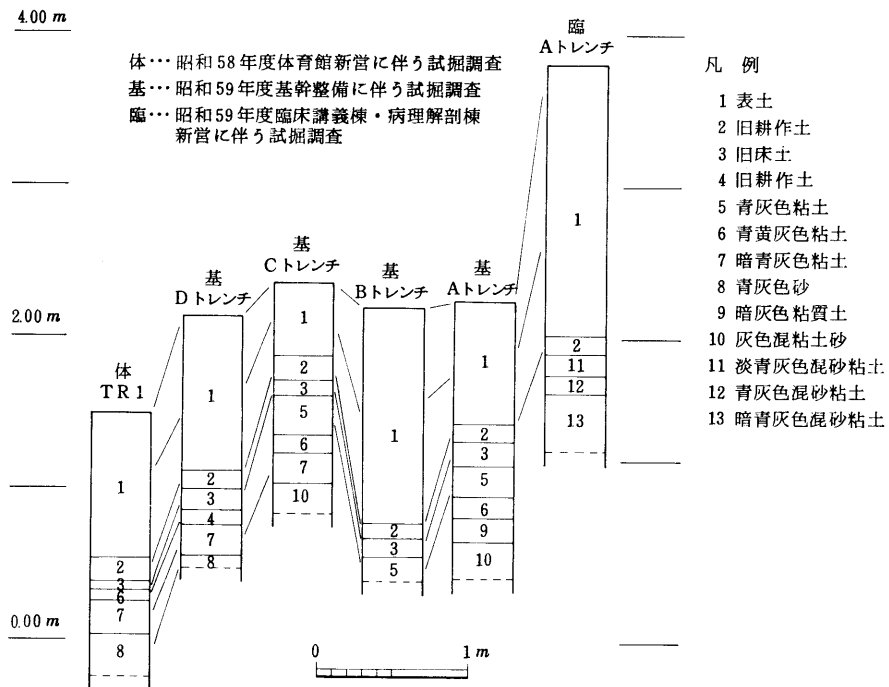


Fig. 16 土層断面柱状図



(1) 調査前全景（南東から）



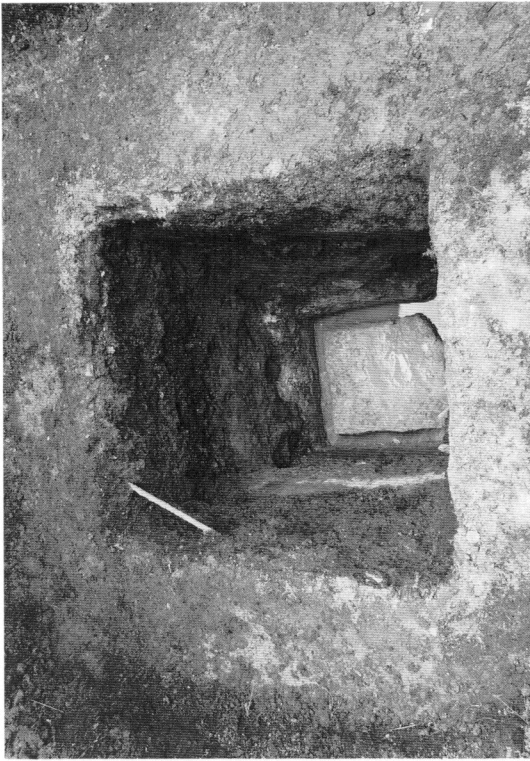
(2) Aトレンチ全景（南東から）



(1) Aトレンチ西壁土層断面（東から）



(2) Bトレンチ全景（東から）



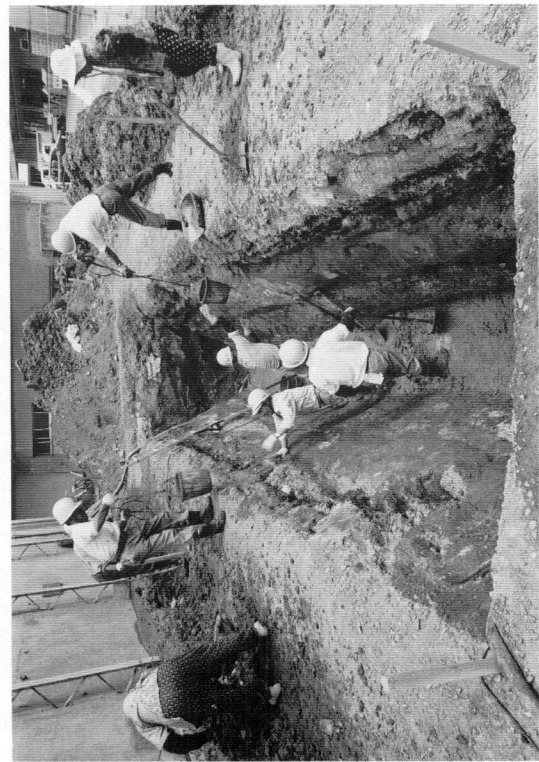
(1) Cトランス全景（北から）



(2) Dトランス全景（北から）



(3) 調査風景



(4) 調査風景